

令和元年度 南アルプス市 まち・ひと・しごと創生審議会 議事録

日 時 : 令和元年10月16日(水) 14:00~15:45
場 所 : 地域防災交流センター 多目的ホール
出席者 : 別紙
議 題 : まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について

次 第

1 開 会

2 会長あいさつ

3 議 事

- (1) 人口ビジョンにおける将来展望の見直しについて・・・・・・・・資料1-1、1-2
- (2) 計画期間中の人口推移について（平成27~30年度）・・・・・・・・資料2
- (3) 第2期総合戦略の策定方針について・・・・・・・・資料3
- (4) 第2期総合戦略骨子について・・・・・・・・資料4

4 専門部会の設置について

5 その他

6 閉 会

司会進行：事務局（政策推進課課長）

司会：第2回まち・ひと・しごと創生審議会にお集まりいただき感謝申し上げます。次第に沿って進めていく。まず、増山総合政策部長よりご挨拶申し上げます。

1 開 会（総合政策部 増山部長）

皆さんこんにちは。

委員の皆さんにはご多忙の中、また先日の台風19号の被害への対応もある中ご出席を賜り感謝申し上げます。

人口減少に歯止めをかけ、地域経済の活性化を図る第2期総合戦略の策定に向けた委員の方々の貴重な審議をお願いし、第2回まち・ひと・しごと創生審議会をはじめさせていただきます。

2 会長あいさつ（塩谷会長）

皆さんこんにちは。

昼間の本当にお忙しい時間帯に多数お集まりいただき感謝申し上げます。

先ほど増山総合政策部長から話があったとおり、まち・ひと・しごと創生審議会ということで、今回は令和2年度から6年度までの5年間の大切な計画である第2期の総合

戦略を策定するための審議会である。

中部横断道の全線開通により、人の流れが変わり、おそらく南アルプス市に大きな人の波が寄せてくる。そうした新しい人の流れ、しごとを地域に持ってきていただき、人口減少を食い止め、東京の一極集中を何とか地方へ動かさないか、と考えている。

第2期総合戦略では、全国のすべての市町村が知恵を出し合って、補助金を狙っている。私も南アルプス市でも審議会委員各位の素晴らしい知恵をお借りして、全国的に見てもユニークな施策を出し合って国に申請できるようにしていきたい。全国各市町村の知恵の出し比べと言っても過言ではない。新しい人の流れを生むということで、皆さんの知恵を出し合っていたいただきたい。力強いご意見をお願いしたい。

司会：これより議事に入る。議事に入る前に、この審議会は委員の過半数の出席がなければ成立しないことがまち・ひと・しごと創生審議会条例第6条に規定されているが、本日は26名中20名のご出席をいただいております、会議は成立しています。

議長は塩谷会長にお願いする。

3 議事 議長（塩谷会長）

(1) 人口ビジョンにおける将来展望の見直しについて・・・資料1-1、1-2
説明：事務局（政策推進課）

資料1を基に人口ビジョンにおける将来展望の見直しについて説明を行った。

議長：40年後の将来ビジョンということで、先の先、令和42年度というと、ここにおられる方はどうなっているかな…と思うわけだが、72,000人の人口が将来展望では10年後には65,000人、社人研の推計では令和42年には42,000人とさらに厳しい数字になっている。これを目標人口では60,000人程度に減少幅を食い止めるという第1号議案であるが、皆さんの意見を伺いたい。

A委員：これまでの5年間の出生者数はどのような推移か。それに基づいて今後5年間のビジョンを出すべきだと思うが。

事務局（政策推進課）：手元にあるデータが平成29年と30年のみだが、平成29年が545人、平成30年が516人であった。出生率については、市の場合、公表は5年に一度であり、1.40が最新だがこれは平成26年の公表値である。既に5年経過しているが、国からの公表が遅れている。

議長：先ほど言ったように40年後の話であり、出生率の展望は令和12年から1.87と

大変高い数字を掲げているが、他に意見がないようなので 40 年後に 6 万人の将来人口を目指すということを承認する。

(2) 計画期間中の人口推移について (平成 27~30 年度) 資料 2

説明：事務局 (政策推進課)

資料 2 を基に計画期間中の人口推移について説明を行った。

議長：第 1 号議案と関連するが、改めて意見はあるか。

B 委員：資料 (1) -2 で生産年齢人口が 40 年間で社人研の推計では 5,500 人減、市の将来展望では 1,684 人減ということであったが、現状、直近 5 年間で 1,800 人減っているものを、この先 40 年間で 1,600 人減に食い止めるという計画をつくっておられるので、最後の「まとめ」にあるように、働く場所をつくるほか、子育ての前に出産が安心してできる必要があるが、市内には産婦人科がないので、今後方針を策定する際に生産年齢人口を増やすためにその辺りを加味していただきたい。

議長：私もその辺りは気になっていた。

事務局 (政策推進課)：人口ビジョンの将来展望は背伸びしている数値だと取られても仕方ないことは認識しているが、全体として、4 万人、5 万人に人口が減ってしまうというのをそのまま受け入れるのではなく目標値として 6 万人台キープということで掲げた。

確かにこの 5 年間で生産年齢人口は -1,800 人となってしまうているが、出生数が年々減っていること、また 20 歳前後の進学・就職に伴う転出による人口の落ち込みはあるが、全体としては平成 29 年、30 年と連続して社会増となっている。その内訳は主に 30 歳代と、年少人口、特に小学校に入学前後の年齢が増加している。これは、この数年間で子育て支援に力を入れてきた効果の表れとも言えるのではないかと考えている。その辺の効果検証も踏まえ、人口減少に歯止めをかけていきたい。さらに、中部横断自動車道の全線開通、リニア中央新幹線の整備を好機として企業立地に力を注いでいくということで、今後の方向性を示している。若者にとっては働く場所は最大の魅力になる。将来展望はどちらかというと楽観的に見ている面もあるかもしれないが、このような視点から人口減少の幅を小さくする展望を描いているところである。

また、平成 28 年度から、若者定住に向けた支援ということで、夫婦の合計年齢が 70 歳以下の世帯の土地建物の新規取得に対して 30 万円、3 子以上の多子世帯には 50 万円の補助金を出しており、400 件ほど交付実績がある。その交付決定者にアンケートを取

ったところ、本市に住居を構えた理由で最も多かったのが地元だから、2番目が子育て支援の充実、3番目は地価が安いというものだった。釜無川以西は地価が安いという立地的な理由が多く、道路・交通網が整備され時間的距離は短縮されており、メリットは非常に大きい。こうしたことも踏まえて人口の展望を出したところである。

出生率を1.4から1.87まで上げるというのは非常に厳しい数字を掲げたことは承知しているが、市民の皆さんと協力してやっていきたいというのが行政側の想いである。

議長：事務局からの説明のように、厳しい面も承知で高めの数値目標としている。社人研の推計のように4万人になってしまえば地域が沈み込んでしまうので、ご理解いただきたい。

(3) 第2期総合戦略の策定方針について・・・・・・・・・・資料3

説明：事務局（政策推進課）

資料3を基に第2期総合戦略の策定方針について説明を行った。

議長：これまでは人口ビジョン、将来展望の見直しについてであったが、ここからさらに重要な議題となる。今後5年間の第2期総合戦略の策定方針ということで、非常に重要な議題であるので、皆さんの意見をいただきたい。

A委員：国の新たな6つの視点というのはどれも重要であるが、その中で移住・定住にもつながる関係人口の創出は非常に大きなポイントであり、議会の質問でも取り上げている。現在考えている関係人口の創出への具体的な取り組みについて、委員の皆さんにもわかりやすく説明願いたい。例えば交流人口から関係人口につなげるようなことなど、どのような考えをお持ちか。

事務局（政策推進課）：関係人口については9月の定例議会でも質問があったところだが、先ほど資料の説明にあったとおり移住定住未滿、交流以上というイメージで、交流と定住の間に関わる方々になる。本市で現在、関係人口に該当しそうなケースとしては、1つがクラインガルテン、二地域居住という形で本市にもいい影響を与えている。もう1つはふるさと納税である。本市に寄附金をいただき、市がそれを財源として市政運営の一部に充当している。現在ではその2つが行政の事業としては大きい。それ以外に民間においても市外の方が本市のために、NPO法人、子育て関係、様々な分野で本市にいい影響を与えてくれる方がいるほか、古くから果物狩りなどが盛んであったため、そうした機会をきっかけに果物と魚介類の交換など、家族ぐるみで交流があったりする。このように、意識しなくても自然と関係人口が生まれているわけだが、今後は観光の振

興においてその辺りを充実させたいと考えている。中部横断自動車の開通により、これまでは首都圏の方が中心だった観光客が、静岡、東海方面から訪れやすくなることにも目を向けて、本市に誘導するような施策も考えていきたい。こうしたことを総合戦略の中にも盛り込んでいきたい。

A委員：先日の議会の中でもその辺りまで答弁があったので、この審議会においても共有すべきと考え、質問させていただいた。知らず知らずのうちに増えてきた関係人口であるが、今後は交流人口の中で意識付けをして、角度をつけて取り組んでいただきたい。また、ふるさと納税は返礼品目当てという見方もあるが、全国数ある返礼品の中から本市の返礼品を選んで寄附をしたというのは、関係人口創出のきっかけになる。お礼状からのつながりなど、より積極的に行うべきとの意見も議会において出たので、この場で報告する。

C委員：ふるさと納税で言えば、全国の中で本市を選ぶというのは非常に不特定多数の方を対象としているが、例えば若い世代で山梨、南アルプス市は好きだが学業の関係、仕事の関係で住むことができないという方にも、返礼品目当てばかりではなく応援してくれる人を増やす仕組みがあってもいいのではないかと感じる。

もう1つ、「若い世代の結婚・出産子育ての希望をかなえる」という基本目標があるが、働く方たちが、30歳過ぎた辺りから妊娠・出産を考えるがこの年齢から考えはじめたのでは妊娠しにくいのが現実である。何年もかかってやっと1人妊娠したため、2人目3人目はあきらめることもあると聞く。もう少し早く、若いうちから体を温めることや、食事の内容などの準備が出来るよう、小中学校からの教育、成人になってからのプランが立てやすい工夫など、妊娠を希望する人が必要な知識を得る機会を提供するなど、総合戦略策定に当たってはそうしたことも考慮していただきたい。

事務局（政策推進課）：先ほど基本的な考え方の中で「観光の振興」と「企業誘致の推進」というのが第2期総合戦略の基軸だと説明したが、その根幹にはまち・ひと・しごと創生ということで出生・定住人口の拡大があり、出生率の向上、子育て支援というのは当然、戦略自体の根幹をなすものである。今後、計画策定の段階で個々の具体的な事業を検討していきたい。

議長：この後4つ目の議題で総合戦略の骨子を取り上げる。そこでもう少し具体的な説明があるので、ここでは策定方針ということで基本的な考え方、基本目標、第1期から若干変わっているが「観光の振興」と「企業誘致の推進」を基軸とするという提案である。詳細については第4号議案で議していただきたい。

D委員：先ほどクラインガルテンの話が出たが、クラインガルテンはまず都市との交流という目的、さらに先ほどは関係人口の創出という説明があったが、実際問題として現在空き家が内定を入れずに37棟のうち5棟ある。なぜ空き家が増えるのか、3月の議会で市長が、関東一料金が高いので検討する余地があると答弁したが、そこからの進展がない。政策サイドでこうした現状を把握した上で総合戦略の策定をしてもらいたい。絵に描いた餅のようなことを言っている、「時代に合った地域をつくり」というのは具体的にどのような地域なのか、我々にはわかりにくい。

議長：ここでは、クラインガルテンに特化した議題ではないが、今後、総合戦略の策定に当たってはここで出た意見について関係部署、農政課と協議した上で進めていただきたい。総合戦略の策定方針としては他に意見がないようなので次に移る。

(4) 第2期総合戦略骨子について・・・・・・・・・・・・・・・・資料4

説明：事務局（政策推進課）

資料4を基に第2期総合戦略の骨子について説明

議長：基本目標が4つ、施策が8つと、主な取組について説明があった。詳細な内容については今後となるが、現段階で意見を求める。

E委員：基本目標4「時代に合った地域・・・」とあるが、他の3つの基本目標と熟度が違うのではないかと感じる。主な取組の内容も、他の3つは基本目標・施策と関連付けられているが、「時代に合った・・・」というのは、目指すべき将来像の頭に付けてもいい内容だと感じる。また、施策8の「安心な暮らしを守る環境づくり」というのは大分前から言われていたことであり、「時代に合った」ということであればもう少し熟度を上げていくべきと考える。

事務局（政策推進課）：まち・ひと・しごと創生総合戦略については、国・県でも計画を策定するのでそれを勘案してということで、国・県の基本目標を基にしている。4つ目の基本目標の中身は、私どももまだ検討しているところであり、中身の熟度は皆さんと協議を重ねる中で今後上げていき、目標設定を行っていきたい。

E委員：全国的にどのような施策が展開されているのか。本市の実態を踏まえた「時代に合った地域づくり」はどのようなイメージか。それを共有していかないと、中身がないものになってしまうので、今後しっかりイメージできるようにお願いしたい。

F委員：基本目標3の施策7、主な取組で「支え合いの地域づくりの推進」とあるが、基本目標4の施策8「安心な暮らしを守る・・・」に入れた方が、整合性が取れる。支え合い協議体の中身は高齢者の見守りが主であるので、変えた方がいいと思う。

事務局（政策推進課）：ここは迷ったところである。体制として見れば基本目標4に入れることも問題ないと思うので、今後検討していきたい。

A委員：先ほど関係人口について取り上げた際に、ふるさと納税でも返礼品以外に本市を応援してくれる方を増やすという意見も出たが、既に取り組んでいるふるさと納税の方向としてガバメントクラウドファンディングがある。これは非常に大切なことだと思う。具体的に実施する事業の内容を示して全国から寄附を募るという方法は、新たな6つの視点の中にも「地方へのひと・資金の流れを強化する」とあり、方法論の一つとして取り入れ、積極的に行っていただきたい。

議長：私も賛同する。今日は計画策定に向けた幹と中枝の部分が出たところであり、次回以降、詳細な小枝の部分が出てくる。ここでは骨子ということだが、他に意見は。

G委員：国の示す新たな6つの視点の中で、2つ目に「新しい時代の流れ」とあり、資料の中に「Society5.0」「SDGs」についての解説があるが、要するにAIとかIT、ハイテクという視点が骨子すべてに絡んでくる。あえて項目立てするものではないかもしれないが、どこかに意識付けをしておく必要がある。新たな6つの視点のうち、2つ目以外は骨子に当てはまっているが、「新しい時代の流れ」、国の基本目標で言うと「時代に合った地域をつくり・・・」という部分が、市の骨子では忘れてしまっているように見受けられる。AI、ITなどを活用した形での施策を考えていかないと、形骸化してしまうと感じる。

先日、総務省関係の講演会に出席したが、「Society5.0」を非常に重視していると感じた。10年前には誰もがスマートフォンを持つとは考えられなかったが、今では決済までできる。それを思えば、こうしたものをベースにしたそれぞれの骨子という意識を持っていた方がいいと思う。AI、ITなどの活用で省力化できれば、他の部分に割くこともできるわけだし、意識を持っておいた方がいいと感じている。

事務局（総合政策部長）：「Society5.0」「SDGs」についてももう少し詳しく説明すべきだったが、今後噛み砕いてわかりやすい形で表すことができればと考える。また、主な取組の中で関連するものができれば、具体的な形で位置付けていきたい。

議長：国の新たな視点の2つ目、これを避けるわけにはいかないなので、検討していただ

きたい。

D委員：東京から出てきてクラインガルテンに3ヶ月いた方が市内に土地を取得して定住している。その方からの意見だが、果樹農家は果樹の実ばかり考えているが、桃源郷、もも、すもも、さくらんぼの花が素晴らしく、活用しなければもったいない。お金をかけなくても活用できる資源だと思う。今後、議論が進み言いそびれてはいけないので、この場で言うておく。

議長：第2期総合戦略の骨子については色々な意見が出たが、詳細な中身は今後精査していくということで、この後事務局からの提案もあるようなので本日の議案としてはここまでとする。

4 専門部会の設置について

事務局（政策推進課）：今日示した基本目標、骨子に基づき、今後計画本体の策定について審議していただく。その中で、専門部会の設置について事務局から提案させていただく。

まち・ひと・しごと創生審議会条例第8条において、専門的な事項について審議する必要があるときは専門部会を設置することができる旨規定されている。先の9月定例議会においても専門部会を設置して深く掘り下げるべきとの提言があったので、本日ここで諮りたい。今後、専門部会を設置して部会ごとに意見をいただいていくという形を提案したい。

塩谷会長：事務局からの提案だが、今日も色々な意見が出たので、ある程度細かい部分については専門部会を立ち上げて議論したほうが適当だと私も考えるが、よろしいか。

委員：異議なし

塩谷会長：異議がないので専門部会を設置することを承認する。

事務局（政策推進課）：具体的にどのような構成にするか意見があるか。意見がないようなので事務局案を示すので、その案について意見をいただきたい。

—追加資料 南アルプス市まち・ひと・しごと創生審議会「専門部会」の設置について を配布し、資料に基づき、事務局から説明—

事務局（政策推進課）：基本目標 1 を仕事部会、2 を観光・交流部会、3 と 4 を市民生活部会で取り上げるということで、メンバーについてはそれぞれの専門分野を考慮して事務局で案を出させていただいた。

D 委員：NPO は労働団体ではないと思うが、なぜこの区分になっているか。

事務局（政策推進課）：国の指針で、産・官・学・金・労・言ということで、産業・官公庁・教育・金融・労働団体・メディアという区分で、NPO についてはこの区分の中では労働団体ということにさせていただいた。

部会のメンバーについては他に意見がないようなので事務局案のとおりとさせていただき、条例で部会長は委員の互選と規定されているが、この場で互選というのは難しいと思うので事務局案を提案する。市議会からそれぞれの部会に常任委員会の委員長 3 名が入っているので、この 3 名を部会長とすることを提案する。仕事部会は矢崎総務常任委員会委員長、観光・交流部会は齊藤諭産業土木常任委員会委員長、市民生活部会は有野厚生文教常任委員会委員長、この 3 名の議員にお願いしたいがよろしいか。

委員：異議なし

事務局（政策推進課）：異議がないようなので、事務局案のとおり専門部会を設置し、部会の開催については部会長と相談しながら進めていく。

5 その他

特になし

6 閉会（名取副会長）

長時間に渡り貴重なご意見をいただき、今後 5 年間の総合戦略の基本目標と骨子が決まったわけだが、今日の意見も参考にさせていただきながら、より良い総合戦略になることを望む。40 年先の数字を見て驚いたが、まずはこの 5 年が非常に重要である。

先の台風 19 号でも多数の犠牲が出たが、この市は比較的穏やかである。昔、櫛形山は地盤が強く、お金さえあれば安心という話を聞いたことがある。このような南アルプス市をより良いまちにし、後世につなげるには、この 5 年間で非常に重要だと感じている。専門部会も決まったので、今後も活発な審議をお願いしたい。

長時間の審議に感謝申し上げ、閉会とする。

以上